

「江戸染」手仕事の粋 伝統ある江戸染の魅力を お届けします！



浴衣や普段着に最適の新商品。綿の小袋帯(半巾帯)

内山工芸染色

うめナビ

vol.7-10

内山工芸染色(中野区新井、内山晴登社長、03・3387・1540)は、江戸染の着物や帯を中心に制作している手染友禅工房である。同社の内山社長(雅号 晴祥)は、江戸染一筋50年超の職人であり、江戸染作家の中では珍しい能装束模様を手掛ける名手として知られている。

京友禅、加賀友禅との大きな違いは糸目糊による防染をしないことである。染料を含ませた筆で絵画のように生地を染め上げていくことで、他にはない柔らかな風合いが作り出される。

受注制作では、お客様一人ひとりの好みやスタイルに合わせ、模様の配置や大きさ、配色を決めて、仕立て上げる。「本当に似合う一枚」と喜びの手紙もしばしば届く。また、譲り受けた着物や好みの変化で着なくなった着物のお手入れやお直しも手掛けており、着なくなった着物は、今の好みに合わせ、仕立て直しや染め替えにより新たな一枚となり、お客様から驚きの声をいただいている。

後継者不足が懸念される職人の世界であるが、長男雅彦氏、次男智幸氏の兄弟が、幼い頃から父親である内山社長の仕事振りや染の奥深さを見聞きして、染の世界にしっかりと足を踏み入れている。

最近では、江戸染の伝統技術を



内山社長。緻密な筆致の伝統技術

活かした新たな試みとして、絹以外の綿、麻等の天然素材の手染めを行っている。特筆すべきは150cm程度の広幅素材の染めにも対応できる技術。この染め技術は、洋服やバッグ等の素材としても適用できるため、新たな商品として開発が期待される。

内山社長は、「これからも江戸染の伝統を守り、一人でも多くの方に江戸染の『粋』を味わってもらおうべく技術の研鑽にいそしんでいく」と話す。ここに二人の息子の現代風商品への技術開発が加わり、「新・職人魂」として魅力あふれる商品を作り続けている。